
教育総合センター

だより

NO. 121

平成 23.9.1

クリティカルポイント

尼崎市立園田北小学校

校長 杉山 寛明



校長室にサボテンの鉢があります。数年前に花屋で購入したものです。何か相性でしょうか。私に買って欲しいというサインを感じて購入しました。でも、実際は緑の乏しい部屋の潤いを探していた時、丁度いい具合に見つただけかも知れません。世話らしい世話をしなくてもよいのが、買った一番の理由かも知れません。その時すでに1mくらいはありました。校長室にいれば、自ずと目に入ります。毎日同じ光景で数年間、別段何の変化もありませんでした。

それが、この一学期の間に急に大きくなりました。「サボテンが急に大きくなった」というとおかしな話のようですが、朝見ると「何か昨日より背が伸びたような気がする」ことが何度もありました。棚の上に鉢があるので、そばに立って自分の指先まで伸ばして比べてみても抜かされそうで、結局抜かされてしまいました。

植物、ましてサボテンなんかに目立った成長など考えられないという既存の思いは目の前の変化に圧倒されてしまいました。

「サボテンでも・・・」と思っている時、ある書物の中身を思い出しました。「努力が報われるまで待てるか否か」といった内容で、「そんなにすぐに変化が出るわけが

ない」「世の中の現象にはクリティカルポイント（臨界点）というのがある、このクリティカルポイントを越えないと何も変化は起こらない」「水は99.99度までは液体なのに、100度になると突然気体になる」「私たちの人生も同じだと思う。多く人は100度になると世界が全て変わることをことを知らずに100度まで待つことができない・・・」

植物は日々見えないくらいの成長を続けています。それでも同じように植えて育てたものでも全て同じとはいきません。

まして私たちの携わっている「教育」という仕事の相手は同じ年齢ではあっても、一人として同じ育ちはないはずです。

生い立ちや家庭環境など様々な背景の下、子どもたちは学校へ通ってきます。

まずはその子どもたちの気持ちをしっかり受け止め、是々非々の態度で接すること。

そして、個々の子どものクリティカルポイントを当人に寄り添って探し、導くことのできる教師をめざしてほしい。

また、そのような教師を育てることこそが、管理職の大きな仕事ではないかと思う今日この頃です。

1年目教員研修から

1年目教員の研修では、校外研修が25日間計画されており、夏休みには、3泊4日の宿泊研修もあります。ここでは4月から実施されている研修の様子について紹介します。

1 第1回1年目教員必修研修(5/17)

尼崎市で受講する最初の研修では、徳田耕造教育長にご挨拶いただきました。

午前中は、AMA-NETの仕組みや使い方、学力向上や小中連携等の課題、尼崎の名所等についての内容でした。

午後は、学級経営についての全体講話の後、グループに分かれて、自己紹介を行い、各自のめざす学級目標や子ども像、教師像について話し合いました。次に尼崎市のまちや勤務校の校区のことについて知る「地域学習」の進め方について意見交流を行いました。語り合う教員の目が生き生きと輝いていた1日でした。

2 ステップアップ研修(1)(5/24)

この研修は選択で、「学校実務」と「理科実験安全」がテーマでした。

「学校実務」では、教育基本法第9条の「絶えず研究と修養に励み」という内容から始まり新学習指導要領、県の指導の重点、市の重点取組、授業の進め方、来校者への対応、情報管理等、幅広く研修をしました。

「理科実験安全」では、新学習指導要領と理科室の管理についての講話を聞きました。

実際の器具を使ってマッチ、アルコールランプ、ガスバーナー、試験管等の安全指導について実技を通して研修をしました。また、ガラス管を熱して曲げるL字管の製作も行い、参加者からは「経験回数に関わらず予備実験の大切さを知りました」等の感想もありました。



3 第2回1年目教員必修研修

(5/31 & 6/7)

第2回の必修研修は尼崎養護学校で体験研修として実施されました。

バスで登校した子どもたちを出迎え、井上校長の講話では、尼崎養護学校や特別支援教育、障害種別等につ

いて説明があり、「各校の特別支援学級の教室が職員室近くにあるのは緊急対応の



ためだけでなく、多くの教職員が声かけをしやすいため」ということも学びました。

その後、授業にも参加し、給食指導も見学や補助をしたりと貴重な体験研修となりました。

4 第3回1年目教員必修研修(6/21)

第3回目は午前に南武庫之荘中学校の棚窪校長を講師に迎え「生徒指導の考え方と進め方」という演題で、生徒指導の意義・機能、生徒指導の基盤となる指導・生徒理解等についての話をいただきました。

午後の研修では、(株)阪急阪神ホテルズ近畿圏事業本部専任部長 魚田勝弘氏から「より良い人間関係を築くために」- 接遇とクレーム対応 - という演題で、身だしなみや基本動作、笑顔について、また具体的なクレーム対応についても研修をしました。

その後、グループ研修を行い、各自の“一番したいこと”について話し合いました。「長期の休暇を取りたい」や「ぐっすり寝たい」など本音も出て、1年目教員の奮闘ぶりがうかがえました。また、学校での近況報告も行われ、子どもたちと触れ合いながら一歩ずつ成長している様子が強く感じられたグループ研修でした。

(研修担当係長 兼田隆男)

教師間のチームづくりについて考えてみましょう

学校は集団、いわゆる「チーム」で働き、様々な「チーム」を組んでいます。例えば、学年、校務分掌、教科などによるチームです。

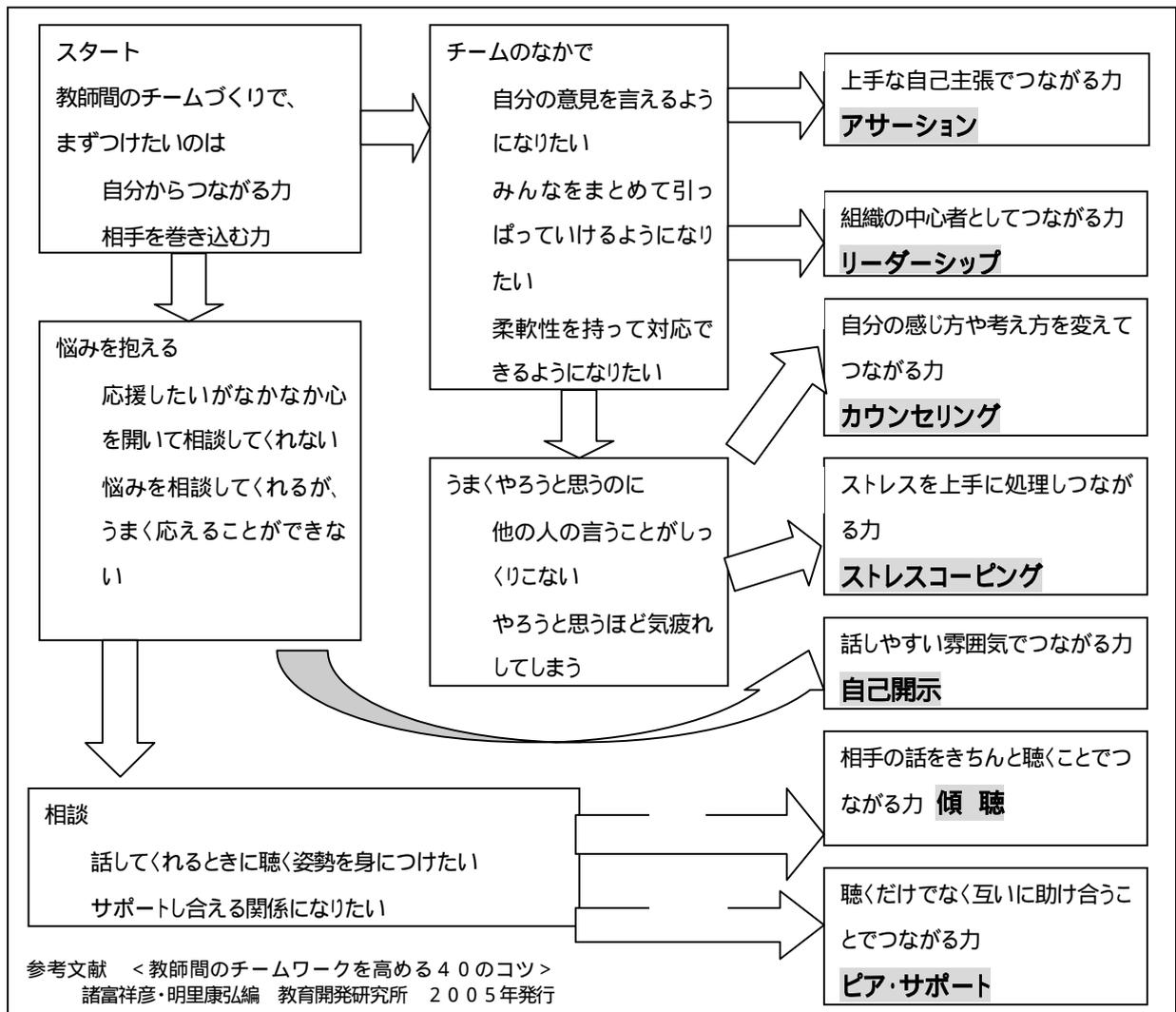
こうしたチームで、自分はどのようなつながり方をすればいいのだろうかと悩まれたことはないでしょうか？下のフローチャートを活用して、「今自分にとって、どのようなつながり方が必要か」を考えるちょっとしたヒントになれば幸いです。

「資料 チームづくりで人とつながる力を知るフローチャート」

整理ができ納得できる答えが見出せたような気がします。

私の周りには、休憩時間や勤務時間後、おやじギャグ（なでしこジャパンの佐々木監督のおかげで見直されていますが・・・）でチームを和ませることができる人が何人かいます。もちろんいつも和むわけではなく、「何、それ」という空気が流れる時もありますが・・・。

しかし、そういう人たちを見ていると、「相談



やってみて、どうでしたか。チームでの自分自身のつながり方は見つかりましたか。

私にとっては、現職場の立場を考えると「ピア・サポート」によるつながり方が大切だと考えました。

そして、ふだんの何気ない会話の中から、心の

しようかな」という雰囲気が溢れています。

そのことに気づいてから、私は、相談の第一歩を踏み出せたような気がします。

みなさんも難しく考えずに、ぜひ自分流のつながる力を見つけてください。

（教育相談担当係長 荒木 伸子）

教育情報コーナーへどうぞ

先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備していますので、教育情報コーナー（3階）にお気軽にお立ち寄りください。また、資料の紹介・お問い合わせにお答えしております。担当までお声をかけください。（情報コーナー担当・幾田）

『S S T（ソーシャルスキルトレーニング）ワークシート・社会行動編』

『S S T（ソーシャルスキルトレーニング）ワークシート・自己認知・

コミュニケーションスキル編』LD発達相談センターかながわ / 編著 かもがわ出版

特別支援教育のこのワーク教材は、「その人が属している集団、（幼稚園、保育園、学校など）の中で求められている適切な言動がとれる技能」が身に付くように、意図的な活動をするための支援教材です。コピーをして直ぐに使うことができます。

『若い教師を育てる～図解式板書術』

田山修三 / 著 小学館

新しいメディア機器が導入されても、「黒板」は“よくわかり、楽しい授業”の基本です。板書は教師のメモではなく、学習の舞台であり学びの足跡です。社会科学習指導案とともに著者の素晴らしい板書術を余すところなく見ることができます。

『校歌探訪～校歌の誕生と託された思い』 末方鐵郎・峯尾敦子 / 編著

『尼崎市立学校 校（園）歌集』

峯尾敦子 / 編著

尼崎で育った子どもたちの心に校歌は卒業して何十年経た今も、心に残る最も美しい懐かしいふるさとのことばとして生き続けているといえましょう。（後書きより）
当時の学校の様子や校歌に託する思いが、ひたひたと伝わってきます。

視聴覚教材・教具の活用を推進します

視聴覚ライブラリー保管の教材や教具は、データベース化しCDで配布しております。タイトル・ジャンル・教科等・対象者別検索などが可能です。また、16ミリ映写機操作技術講習会を開き、「認定証」を発行し、16ミリ映写機を貸し出ししています。以下のフィルム以外に16ミリ教材は370巻以上あります。（フィルムライブラリー担当・上玉利）

（自然・歴史）「附子 狂言のおもしろさ」「高瀬船」「ゲンジボタル」・（平和）「おこりじぞう」「トビウオのぼうやはびょうきです」・（体育）「よみがえる子どもたち」・（家庭）「わが家の団らん」・（災害）「大地震が学校をおそった」・（人権）「星がきれいに見える街」・（国際）「朝鮮通信史」・（劇映画）「とうふ屋かあさんとその子どもたち」「きみが輝くとき」・（動画）「ごんぎつね」「銀河鉄道999」「二十四の瞳」「スイミー」「おにたのぼうし」「ジャングル大帝」「忍たま乱太郎」「泣いた赤鬼」等